



国内外の多くの漫画展のキュレーションに携わってきた国立新美術館主任研究員によるトークイベントを2026年1月ロンドン、パリの2都市で開催



©2025 淡海株式会社

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の観点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007年に開館しました。以来、あらゆる国や地域の人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして、現代美術を中心に、デザイン、ファッショニ、建築、漫画・アニメなど、さまざまな分野における新しい表現を紹介し、同時代の芸術の振興に努めています。

2023年には国立美術館として初めて学芸課に国際連携室を設置しました。2025年には香港にあるアジアを代表する現代美術館M+（エムプラス）との国際連携に関する覚書（MOU）に基づき「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」展を協働キュレーション、共同開催するなど、国際的なネットワークの構築や

パートナーシップを通じて、世界に向けた日本の現代美術の発信に取り組んでいます。

2026年1月には、日本国内でも数少ない漫画を専門とする研究者で、国内外の多くの漫画展のキュレーションに携わってきた国立新美術館主任研究員の吉村麗によるトークイベントを、同年10月の「少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸涼子×大和和紀三人展」開幕にさきがけ、ロンドン、パリの2都市で開催します。吉村も準備に関わった「MANGA ⇄ TOKYO」（2018年、ラ・ヴィレット）、「Manga」展（2019年、大英博物館）が開催されたパリとロンドンで、吉村の研究テーマである少女漫画の多様性や漫画特有の展覧会制作の舞台裏、漫画を専門とするキュレーターの仕事などについて、現地専門家との対話も交えながらご紹介します。

プレゼンター



吉村 麗

よしむら・れい
国立新美術館 主任研究員

漫画研究者。川崎市市民ミュージアム・漫画部門学芸員（2014～17年）を経て、2017年に国立新美術館の客員研究員に着任、2021年より特定研究員、2025年より現職。

川崎市市民ミュージアムでの代表的な展覧会は、「『スピード太郎』とその時代～市民ミュージアム所蔵・宍戸左行遺品資料を中心に～」（2015年）、共同キュレーション企画「江口寿史展 KING OF POP」（2015年）や「『描く！』マンガ展～名作を生む画技に迫る—描線・コマ・キャラ～」（2016年）など。

国立新美術館では、日仏修好160周年記念のパリにおける展示プロジェクト「MANGA ⇄ TOKYO」（2018年、ラ・ヴィレット）、大英博物館の「Manga」展（2019年）の海外プロジェクトに携わったのち、「MANGA 都市 TOKYO ニッポンの漫画・アニメ・ゲーム・特撮 2020」（2020年）を担当。また、近年の担当展示は漫画にとどまらず、「庵野秀明展」（2021年）、「ワニがまわる タムラサトル」（2022年）、「NACT View 02 築地のはら ねずみっけ」（2023年）、「CLAMP 展」（2024年）など多岐に渡っている。

講演会

美術館における漫画の拡がり： 吉村 麗 キュレータートーク

2026年1月20日（火）18:30-21:00

会場：ジャパン・ハウス ロンドン ホール

予約制無料

日本の美術館やギャラリーで漫画がどのように紹介され、芸術表現のひとつとして受容されてきたのかを探るトークイベントです。1990年に東京国立近代美術館で開催された「手塚治虫展」を皮切りに、全国で漫画作家に特化した美術館が設立され、漫画に関する研究も盛んになり、より学術的で批評的な展覧会が開催されるなど、漫画は日本の芸術文化の一環として認知されてきました。

本トークはジャパン・ハウス ロンドンとの共同企画として、国立新美術館が2026年に開催する「少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸涼子×大和和紀 三人展」に先駆けて行われます。少女漫画という言葉は少女向けの漫画、より正確には若い女性読者をターゲットとする雑誌に掲載された作品を意味します。展覧会では、1970年代の「少女漫画黄金期」の立役者である三人の女性漫画作家の画業を通して、少女漫画の歴史的意義に光をあてます。

トークでは、国立新美術館主任研究員の吉村麗が、同館の漫画への取り組みと自身のキュレーション手法について、作家や作品を日本漫画の広範な歴史の中に位置付ける方法や、原画を魅力的に展示するための創造的な戦略を交えながら紹介します。2007年の開館以来、国立新美術館は現代アート、建築、デザインからファッション、アニメーション、漫画まで、現代の多様な創造的表現の振興に努めてきました。漫画を消費主義的な大衆文化としてではなく、重要な芸術的・文化的表現と捉え、国内外の皆様に紹介しています。



Photo courtesy of Japan House London

| | |
|-----|--|
| 主催 | 国立新美術館 ジャパン・ハウス ロンドン 独立行政法人日本芸術文化振興会 文化庁 |
| 会場 | ジャパン・ハウス ロンドン |
| 日時 | 2026年1月20日（火）18:30-21:00 [第一部] 18:30-19:30 講演会 場所：地下ホール [第二部] 19:30-21:00 交流会 場所：地下ロビー |
| 入場料 | 無料（事前予約制） |
| 言語 | 日本語・英語逐次翻訳 |
| URL | https://www.japanhouselondon.uk https://www.japanhouse.jp |

ジャパン・ハウス ロンドンとは

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策、取組を発信することにより、幅広い層に対し、親日派・知日派の裾野の一層の拡大をはかることを目的に、外務省により世界の3都市（サンパウロ・ondon・ロサンゼルス）に設置された対外発信拠点です。

日本文化への関心が高まる欧州の拠点として、ロンドン市内の文化的、商業的建造物が多く所在するエリアの目抜き通りケンジントン・ハイストリートに2018年6月に開館しました。アールデコ調の歴史的建造物の中の3フロアにわたり、展示ギャラリー、多目的スペース、ライブラリー、レストラン、カフェ、ショップ、観光案内コーナーを備えた複合施設として、アート、デザイン、食、建築、テクノロジーなど日本の多様な魅力を通して、真の日本との出会いを現地の人々に提供しています。

※ 内容や日時は都合により変更となる可能性があります。
あらかじめご了承ください。

講演会

少女漫画の世界

2026年1月22日（木）18:00-21:00

会場：パリ日本文化会館 小ホール

予約制無料

国立新美術館主任研究員の吉村麗と Akata 編集長のブルーノ・ファムによる講演会。吉村の研究テーマである少女漫画の多様性について、「少女漫画黄金期」の立役者として現在も精力的に活動する萩尾望都、山岸涼子、大和和紀の作品を中心に紹介します。

また、フランスにおける少女漫画の普及に貢献してきたファムとともに、少女漫画を日本文化や社会の鏡として捉え、その歴史、美学、日常生活との結びつきについて、日仏双方の視点から議論します。



Photo courtesy of MCJP

| | |
|-----|--|
| 主催 | 国立新美術館 パリ日本文化会館 独立行政法人日本芸術文化振興会 文化庁 |
| 会場 | パリ日本文化会館 |
| 日時 | 2026年1月22日（木）18:00-21:00 [第一部] 18:00-19:30 講演会 場所：小ホール [第二部] 19:30-21:00 交流会 場所：地上階エントランスホール |
| 入場料 | 無料（事前予約制） |
| 言語 | 日本語・フランス語逐次翻訳 |
| URL | https://www.mcjp.fr/ja |

※ 内容や日時は都合により変更となる可能性があります。

あらかじめご了承ください。

パリ日本文化会館とは

パリ日本文化会館は、国際交流基金（ジャパンファウンデーション）が海外に保有する文化会館のひとつです。1997年の開館以来、海外で最大規模の日本文化発信拠点として、日仏・官民共同で、文化と芸術の都パリから日本文化の発信を行っています。

伝統文化からポップカルチャーまで、展示、舞台公演、映画、日本研究者を中心とした講演会、図書館、子ども向け事業、アトリエ事業等多角的に紹介すると同時に漫画、茶道、書道、いけばな、着物、和食に日本酒等様々な体験講座や日本語講座も実施しています。

パリ日本文化会館が目指すもの

世界が大きな変革期を迎える今だからこそ、パリ日本文化会館は、日本文化の持つ力で様々な価値観を持つ人々を結び付け、気候変動、格差の拡大などの世界規模の課題を解決する糸口を提供し、持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指しています。

企画展

少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸涼子×大和和紀 三人展

2026年10月28日(水)–2027年2月8日(月)

会場：国立新美術館 企画展示室 2E



少女漫画界を代表する巨匠、萩尾望都・山岸涼子・大和和紀の画業をたどる三人展を、国立新美術館開館20周年を記念し、開催いたします。

萩尾・山岸・大和は、いずれも1960年代後半にデビューし、1970年代には表現の可能性を大きく広げた「少女漫画黄金期」の立役者として活躍しました。以来、現在に至るまで精力的に作品を発表し続け、まさに表現の多様性を探求する歴史とともに歩んできた“時代の証言者”とも言える存在です。

本展では、三人のこれまでの創作活動を、代表作の原画や貴重な資料を通して振り返るとともに、それぞれの活動の軌跡、創作の源泉に迫ります。

国立新美術館について

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の視点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007年、独立行政法人国立美術館に属する5番目の施設として開館しました。以来、コレクションを持たない代わりに、あらゆる国や地域の人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして活動しています。具体的には、国内最大級の展示スペース(14,000m²)を生かした多彩な展覧会の開催や、美術に関する情報や資料の収集・公開・提供、さまざまな教育普及プログラムや国際文化交流の実施に取り組んでいます。



イベントのお申込みについては、各会場のホームページをご確認ください。

ジャパン・ハウス ロンドン <https://www.japanhouselondon.uk>
(12月中旬予約受付開始予定)

パリ日本文化会館 <https://www.mcjp.fr/ja>
(12月下旬予約受付開始予定)

プレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://forms.office.com/r/jS6e7bSMpU>

プレスリリースお問い合わせ

国立新美術館 広報室
TEL: 03-6812-9925
E-mail: pr@nact.jp